

# 津波を想定した総合防災訓練実施 訓練も踏まえどんな対策が提示されるか注目

上越市総合防災訓練が12日、直江津地区で行われました。今回の訓練では、直江津沖で地震が発生し、大津波警報が発令されたという想定で、各町内会の避難訓練が行われました。直江津地区の住民、約1900人が参加しました。

私は港町の指定避難所である旧古城小学校へ行き、徒歩や自転車、自動車による避難の状況を見せていただきました。

防災無線で警報が流れてから次々と避難者が訪れました。そのなかには酸素マスクをして車に乗っている人、目が見えなくて誰かと手をつないで歩いてこられた人などもいました。避難するにしても身体状況などで様々な人がいることを再認識しました。今回、避難が一番時間がかかった人で15分くらいだったと思います。日本海側は津波の到達が早いのが特徴です。もう少し早く避難するとすれば、避難タワーのようなものを作るしかないと思います。

すごいなと思ったことは、避難訓練参加住民数が当初想定した30人を大きく超える50人以上になったことです。市民の関心度の高さを感じました。

住民の避難訓練終了後、マイクロバスで旧古城小学校から海浜公園へ移動



【イボクサ】ツククサ科の多年草。漢字で「疣草」と書きます。わが家のそばの字道の側溝部分にありました。花が咲いていなければ気づかなかったと思います。花期は9月～11月。薄紫色の3つの小さな花をそっと咲かせます。数時間でしぼむので見つけにくいです。花言葉は「可憐」「生命力旺盛」。10月2日、吉川区代石にて撮影しました。

しました。そこでは、ドローンによる情報収集、物資運搬訓練、波消しブロックで負傷した人をヘリで救助する訓練などが行われました。

円定規でコウノトリを描いた狩野浩和さんの作品もいいなと思いました。とにかく観察力がすごい。

能登半島地震後、住民のヒアリングやワークショップなどが行われ、様々な課題整理もされたと聞いています。

今回の訓練でそれらの課題解決に向けての取り組みがどうであったかなどを具体的に知りたいところです。訓練を踏まえた対策は早期に市議会に報告してほしいですね。

イラストの上は旧古城小学校に徒歩で避難する住民。下は旧校舎の屋上での避難の様子です。

## 市展鑑賞してきました

市展はまずオーレンプラザ会場へ。日本画、洋画などの作品が並んでいました。たくさん魅力的な作品の中で私が特にひかれたのは小林充也さんの「山間をゆく」という絵です。ディーゼル機関車がライトを点け、山中を走っている光景を描いたものですが、この雰囲気がとても好きです。



今春、吉川区で4羽のヒナを育てたコウノトリ夫婦は10日、青野池にいました。元気に歩いていました。

No.2176 2024.10.20

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のいかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

# はしづめ法一の活動レポート



青野十文字近くで保倉の青空市をやっている徳治さんから電話があったのは一〇月に入ってからでした。

電話は、しばらく会っていなかったのが元気がどうかの確認だったのですが、その際、八日に青空市は一千回に到達すると聞いたのです。そのとき、「それはめでたい、激励に行かなきゃ」と思いました。

八日の朝、病院へ行く途中、青空市に寄りました。時間は午前九時少し前だったと思います。最近は無入市になっているので、誰もいないかも知れないと思っていたのですが、農産物などが並んだテーブルのそばにはMさんともう一人、女性の方がおられました。

「はい、いらっしやい」と声をかけていただいたので、「きょうが干回目と聞いたんです。できました」と言いました。Mさんは、「そうなんだ。知らなかった」と言って笑いましたが、毎回の市に何かを出している人にとっては単なる通過点なのではないでしょうか。

この日の市(いち)には、玉ねぎ、里芋、キュウリ、トマトなど農産物の他、パンやバナナなども並んでいました。このうちキュウリやトマトは畑ではほぼ終わっていますので、とても貴重です。普通に出荷できなくなったものも含めてこうしたものを入手できるのは市ならではのことです。この日、私が買ったものはやはりキュウリとトマトでした。

Mさんの前には濃い緑色の唐辛子のようなものがありました。そこに私の目が行ったのがわかったのでしょうか、Mさんが「これいらぬ。唐辛子のバカ辛いの……」と言ってきました。いる、いらぬの返事をすると、「私から、これ、何て名前」と訊くと、「わかんない。『あるるん』にも売っているんだけどね」との答えでした。

Mさんに「もらいます」と言って、改め

てこの「唐辛子」を見ると、少しずんぐり型で、しかも表面は本当に濃い緑です。

「いかに辛そうですね」と言うと、Mさんは、「そうだね。私、これ、ふた切れほど入れて油で炒めるの。辛さは日本のカグラ南蛮くらいかな」と応じ、さらに「これ、好きな人にしかあげらんない。ああ、良かった」と言いました。市では農産物などの売り買いだけでなく、こうしたプレゼントや物々交換も行われているんですね。

さらにNHKの「ためしてガッテン」のような情報交換もあります。Mさんともう一人の前のテーブルには、おわん型の白い入れ物に入ったクリと白い袋に入ったクリが並んでいました。「クリも皮むきがないへんでね」と言ったら、お二人から、「一回冷凍してから熱い中に入れるとむきやすくなるらしいよ」「チルド室に入れてゆると、ペロンとむけるようになる」と教えてもらいました。二人とも同じことが頭にあっただようです。

この日は昔の思い出や世間話もたくさん聴きました。Mさんが昔、直江津の三八市で花を売っていたという話は初耳でした。バケツ一杯五百円で売っていると、お客さんの列ができたそうです。私が三八市へ行き始めた十数年前よりさらに前の話なのでしょう。驚きました。青空市にも出店していた安塚のお寺さんは保倉小学校の教頭だったという話にもびっくりしました。

久しぶりに会ったMさんがこの日語った言葉の中で印象に残ったのは、「三八市も青空市も人とのつながりができるのが一番うれしい」でした。青空市の中心になっっている徳治さんも、「お客さんはいいい人ばかり。これからは二千回をめざすよ」と言っておられました。私は十一年前の青空市がスタートしたところから付き合いをさせてもらっていますが、これからも応援していきたいと思えます。

## 月影芸能祭、社交ダンスも入って盛り上がる

13日は午前10時から浦川原区の月影の郷で月影芸能祭でした。この会場では春と秋に大きなイベントがあるのですが、いずれも私のイラストを使ったポスターを作成されていて、それが縁で、来賓として呼ばれています。

この日は、吉川区敬老会の時と同じように『コウノトリさん、ありがとね』の歌の1番を歌ってから、挨拶させていただきました。短い歌なのに手拍子まで出て、歌っているこちらがびっくりしました。

芸能祭本番、地元の月影雅楽保存会の皆さんによる演奏でオープニング。その後、フラダンスや日本舞踊、歌などが次々と披露されました。今年は社交ダンスのプロが出演、見事な踊りに酔いしれました。また、地元フラダンスチームがゆったりとした動きで観衆を



魅了しました。さらに歌謡もあり、楽しい時間を過ごさせてもらいました。地域で芸能イベントを継続させるというのは素晴らしいですね。イラストはフラダンス、社交ダンスです。



### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月9日(水)	10月16日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.047	0.057
名立分遣所	0.057	0.063
高士分遣所	0.057	0.050